



「KOMABA DAY」は月に一度実施している日で、世界で起こっている様々な問題に子どもたちが触れる機会を作っています。また、同日は募金箱も設置します。集まった募金は災害などの緊急支援や KOMABA の開校以来、その活動を応援し続けているトータルペインター・ミヤザキ ケンスケさんのプロジェクト OVER THE WALL に役立てられます。なお楽しみながらの活動を目指しているため、「KOMABA DAY」では講師は私服で授業をし、生徒は授業中の飲食を可としています。

世界の Z 世代のシンボルがワンピース？

インドネシアからフランスまで 抗議デモの象徴は



日本の人気アニメ『ワンピース』の海賊旗「ジョリー・ロジャー」が、近年アジア各国の抗議運動で抵抗の象徴として使われている。もともとファン文化に限られていた旗は、インドネシアで独立 80 周年を前に掲げられ、不正や格差への批判を表すものとして注目された。しかし政府は国の統一維持を理由に掲揚を禁止した。ところが 8 月末、配達中のバイク運転手がデモ現場で警察車両にひかれて死亡した事件を契機に、旗は若者の抗議の象徴として一層広がった。

その後、旗は国境を越え、ネパールでは Z 世代の若者が「WakeUpNepal」と書かれた旗を掲げ、汚職に抗議するデモを展開。衝突で 19 人が死亡し、首相が辞任に追い込まれた。フィリピンでも大学の反汚職イベントで旗が登場し、写真が SNS で拡散。さらにフランスの公共サービス削減への抗議でも参加者が旗や麦わら帽子を用いた。

旗は「自由」「友情」「不正への反抗」を示すシンボルに再解釈され、SNS を通じて国際的な共感と連帯を呼んでいる。研究者は、大衆文化と政治文化の融合が若者の行動を促し、草の根の不満を結集させていると分析。CSIS も、日本文化の影響が抗議運動を後押しし、国際的な民主主義運動の連帯を示すと指摘する。こうしてジョリー・ロジャーは、もはや単なるアニメの記号ではなく、世界の若者が希望と抵抗を託す旗印へと変化している。

(ニュース参考 VOI*ジャカルタ地元紙)



『ワンピース』の旗を掲げて抗議する若者たち

昨年ジャカルタ校にいた山本先生から「インドネシアのデモでワンピースの旗が振られているらしいですね」と聞いた時には耳を疑いました。調べてみると日本のニュースだけではなくインドネシアのメディアでもこのことが大きく報じられているではありませんか。先日ジャカルタに出張へ行った際にも気になったので、現地のタクシーの運転手何人かにおさるおさる聞いて見ると…このことを知っているのはもちろん、例えワンピースを読んだことはなくても、この旗を掲げることによるメッセージが共有されていることに疑いも違和感もない様子でした。デモを起こしている当事者の方々の深刻な思い、それとは別に日本の漫画が世界に与えている大きさは想像以上であることを再認識した出来事でした。とても不安定な世界情勢においてルフィが果たす役割があるならもう一つ、ルフィが砕くのは相手の命ではなく信念のみであることも広まってほしいと願います。 (石川)